

「システム開発方法論への科学的アプローチ」研究会

2019年度第2回勉強会のご案内

2019年7月25日

情報システム学会同上研究会発

1. 日時：2019年9月30日（月）午後2時00分～午後5時

2. 場所：株式会社プライド会議室

■場所

株式会社プライド

東京都千代田五番町12番地1番町会館3F

TEL：03-3239-5431

FAX：03-3239-5432

■アクセス

<https://www.naska.co.jp/corporate/access>

JR四ツ谷、JR市ヶ谷から共に徒歩5分

3階エレベータ前の株式会社インフォメーション・ディベロプメント社総合受付 左手奥「303会議室」です。

3. 発表

現場で悪戦苦闘していると、腰を落ち着けて「いま・ここ」を眺める目を失いがちである。我が国のIT企業の現場は時代の波に翻弄され続けてきた。だが、流されてばかりはいられない。船は今どこにあるのか、どこに向かえばよいのか。考える目を養いたい。まずは、老師の語りに耳を傾けてみよう。これまでと違う見え方に会おうだろう。その上で、新たな方向を模索してみようではないか。今回は、情報システムの歴史とともに人生を歩まれた、斯界の重鎮である芳賀正憲氏を講師に迎え、議論を楽しみます。

講師：コスモロジック代表 芳賀正憲氏

タイトル「日本のIT企業は、なぜ弱いのか - 確かな将来を持つための課題」

現在、世界の企業時価総額ランキングで、トップ5は、マイクロソフトとGAF Aである。アジアでは、7位、8位に、中国のアリババとテンセントが入るが、日本企業はトヨタの46位が最高で、総額はマイクロソフトの5分の1以下である。また日本のIT企業ではソフトバンクグループがトップだが、トヨタの半分以下の時価総額である。情報社会が進行しているにもかかわらず、日本のIT企業トップの時価総額は、世界（米国）のトップより1桁低いレベルにとどまっている。工業社会のピーク時（平成元年頃）に技術力、経済力で世界のトップを走っていた日本は、平成の30年間、情報社会の進行とともに、没落の一途をたどった。

情報社会になって日本の技術力、経済力が低迷した原因は、政官産学いずれにもあったと考えられるが、上で述べた企業の時価総額ランキングから、日本のIT企業が、情報社会を牽引するだけの実力をもたなかったことが大きな要因として挙げられる。

日本のIT企業の実力はなぜ低いのか、どのように低いのか。また、どのようにすれば、

確かな将来を持つことが出来るのか。研究会では、さまざまな可能性を挙げながら、発展策を皆様と議論していきたいと思います。

参加費：無料

★研究会の後、懇親会を催します（費用は実費）。

研究会の参加希望の方は以下のメールアドレスにメールをください。

nakanishi-m@nagoya-ku.ac.jp 中西昌武（名古屋経済大学）宛て

以上